

ニュー
ノーマル
新型コロナと
生きる

加 西

加西市鶉野町の鶉野飛行場跡と周辺に16日、大阪府松原市の松原第六中学校が修学旅行で訪れ、平和学習に取り組んだ。同飛行場跡が修学旅行で活用されるのは初めて。新型コロナウイルス感染

症の影響が続く中、遠距離の移動をせずに平和学習ができるのが魅力。同校のほか、大阪、京都府や兵庫、奈良県などの小中学校17校が12月までに訪れるほか、さらに検討中の学校もあるという。
(小日向務)

鶉野飛行場跡 遠距離移動なく感染防止も

大阪から初の修学旅行

戦跡を巡り平和学習

松原第六中は平和や人権 事前学習にも取り組んだ。の学習に力を入れ、3年前 当初は6月の予定だったから加西市での修学旅行を が、同感染症の影響で延期準備。戦史研究家の上谷昭 していた。夫さんを講師に招くなど、 もう1校も延期後の来訪

だが、ほかの16校はコロナ禍で急ぎよ、加西市を修学旅行先に選んだ。校外学習として、加西市など県内の5校も訪れる。

松原第六中の3年生132人は、4、5人のグループに分かれ、紫電改の実物大模型や巨大防空壕、対空機銃座跡などを見学。地元ガイドから説明を受けた。最後に鶉野平和祈念の碑苑前で平和集会を開催。全員で黙とうした後、代表が「たい」と話していた。

年末までに小中17校予定



実物大模型などの前で、紫電改や特攻隊について上谷昭夫さんから説明を聞く修学旅行生=いずれも加西市鶉野町



平和集会で千羽鶴を供える生徒代表

千羽鶴を供え、「戦争は二度と起こしてはならない。全ての人に思いやりの心を持つて接し、戦争への学びを語り継ぎたい」とする誓いの言葉を読み上げた。

生徒代表の一人、西山実希さん(14)は「今の生活が当たり前ではないことが分かった。毎日を大切にしたい」。別の女子生徒(14)は「特攻隊をテーマにしたシアターでは、みんなが親や兄弟への思いを告げていて、心に残った」と話した。